
馬鹿じゃない馬鹿

Komu6

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

馬鹿じゃない馬鹿

【Nコード】

N76020

【作者名】

Komug

【あらすじ】

2040年。人口が急激に増加して、人口を減らすことになったのだが、減らし方は勝負（頭脳戦や心理戦のようなもの）で負けたものを殺すというかなり残酷なものであった。しかし、人口300億人を突破した世界に未来はないと予想されている。誰もがこの人口の減らし方に賛同し、己が生きることのみを考えてようになった。主人公は学年で成績最下位。しかし、自分で馬鹿ではないと思っている。主人公は馬鹿でないことを証明するために、生き延びて未来を創造するために。勝負に挑んでいく物語です。

序章（前書き）

結構複雑な話になると思うので、分かりやすいように大まかな話の流れを一話で。

本題は次の話からじゃんじゃか書いていききたいと思います。
引き付けられるような話をどんどん書いて行きたいと思います。

序章

成績は学年最下位。

しかし、周りにいる奴らがどうも馬鹿に見えて仕方ない。

考えた末、こんな結論に至った。

勉強＝頭がいい ではない。

頭が良くない奴はこの世に不必要だと。

しかしそこでまた疑問が浮上した。

僕は頭がいいのか悪いのか。

この世に不必要が必要か・・・。

2040年

2040年現在、人類の存亡は危うくなっていた。

人口が爆発的に増加し、世界人口は300億人に。

日本だけでも10億人。

世界のどこに行っても、すし詰め状態。

10年後には人口は450億人を突破し、酸素が足りなくなると予想されている。

そして、このままではまずいということで、世界の学者やら頭の良

い人が集まって会議が開かれた。

今後人類を存亡から救う会議である。

その会議の結果、こんなルールが世界で定められることになった。

「人口を減らすために、頭の良い人を厳選する。そして厳選された選ばれし者のみで未来をつくる。しかし、頭がいいというのは勉強が出来る人を指しているわけではない。根本的に頭が良い人だ。だから、勝負（心理戦や頭脳戦のようなもの）をしてもらい勝者のみに生きる権利を。敗者には死を。」

要するに、勝負をして頭の良い人を厳選して人口を減らす。

しかし、これはまさに僕が考えていたことと同じ。
馬鹿は死ねって事だ。

はじめは反対の声が圧倒的であったが、取り返しのつかない状況である今、

このルールを定めて、人口を減らすしかなかった。

これまで人類が作り上げてきた法律や憲法。人権を完全に無視しているが、

わがままなんていつてられないのだ。

世界中の人がそう考えるようになった。

もう、秩序とかそういうものは一切ない。

皆が皆自分が生き延びることしか考えていない。

僕もその一人であった。

もしかしたら、家族や大切な友達が勝負に負けて死ぬかもしれない。
しかしそれは、仕方あるまい事だ。

家族だろうと友達であろうと、馬鹿であれば死ぬべきだ。

酸素の無駄だし、一緒にいるだけで疲れる。

僕は学力は悪いけど、馬鹿なんかじゃない！！

僕が馬鹿でないことを証明するのには、良い機会だ。

絶対にやってやる！馬鹿じゃないことを知らしめて、未来を創造するんだ！！

序章（後書き）

次の話をお楽しみに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7602o/>

馬鹿じゃない馬鹿

2010年11月7日03時37分発行